

第4学年 体育 学習指導案

令和5年9月27日(水) 第5校時
大田区立松仙小学校 4年4組 33名

校内研究のテーマ

主体的に学び合う楽しい体育学習

～児童がすすんで運動に取り組み、仲間との学び合いを通して～

1 単元名

器械運動領域「マット運動」～目指せ！マットマスター！～

2 単元の目標及び単元の評価規準

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
単元の目標	マット運動の楽しさや喜びに触れ、その行い方を知るとともに、回転系や巧技系の基本的な技ができるようにする。	自己の能力に適した課題を見付け、技ができるようになるための活動を工夫するとともに、考えたことを友達に伝えることができるようにする。	マット運動に進んで取り組もうとし、きまりを守り誰とでも仲よく運動をしたり、友達の考えを認めようとしたり、場や器具の安全に気を付けたりすることができるようにする。
単元の評価規準	<p>① マット運動の行い方や動きのポイントについて、言ったり書いたりしている。(知識)</p> <p>② 回転系の技の行い方やポイント、練習の仕方を理解している。(知識)</p> <p>③ 巧技系の技の行い方やポイント、練習の仕方を理解している。(知識)</p> <p>④ 自己の能力に適した回転系や巧技系の基本的な技ができる。(技能)</p>	<p>① 自己の能力に適した技を選んだり、課題を見付けたりしている。(思考・判断)</p> <p>② 学習資料を活用して練習の場や練習の仕方を選んでいる。(思考・判断)</p> <p>③ 課題の解決のために考えたことをワークシートに書いたり、友達に伝えたりしている。(表現)</p>	<p>① マット運動に進んで取り組もうとしている。(愛好的態度)</p> <p>② 運動を行う際のきまりを守り、友達と助け合おうとしている。(共生)</p> <p>③ マット運動を行う中で互いの動きを見合う際に、仲間の考えや取組を認めようとしている。(公正・協力)</p> <p>④ マット運動をする際に場の整備をしたり、器械、器具の安全を確かめたりするとともに、試技の開始前の安全を確かめている。(健康・安全)</p>

3 単元について

○単元観

本単元は、小学校学習指導要領（平成 29 年 7 月告示）体育〔第 3 学年及び第 4 学年〕の B「器械運動」の、

- (1) ア マット運動では、回転系や巧技系の基本的な技をすること。
- (2) 自己の能力に適した課題を見付け、技ができるようになるための活動を工夫するとともに、考えたことを友達に伝えること。
- (3) 運動に進んで取り組み、きまりを守り誰とでも仲よく運動をしたり、友達の考えを認めたり、場や器械・器具の安全に気を付けたりすること。

を受けて設定した。

本単元では、第 1 時でマット運動の行い方、安全に取り組むための約束を確かめ、3 年生までに学習してきた技に取り組む。また、技の系統性を確認し、児童が習得したい技を選んだり前段階の技に実際に取り組んだりして、技能の現状を知る。第 2～3 時では、回転系の技の行い方やポイントを知り、自己の能力に適した技を選んだり課題を見付けたりする。第 4 時では、巧技系の技の行い方やポイントを知り、自己の能力に適した課題を見付けたり、取り組む技を選んだりする。また、第 2～4 時で取り組んできたことを通して、児童が単元の後半で精度を高めたい技を決める。第 5～6 時では、自己の課題に適した練習の場や方法を選んで取り組んだり、仲間と互いの動きを見合ったりして、技ができるようになるために練習の仕方を工夫したり、考えたりしたこと伝え合い、技を身に付けられるようにすることを目指す。第 7 時では、これまでの学習や練習を通して身に付けた技を仲間同士で見合い、伸び具合を伝え合う。

課題解決に向けて、技のポイントと課題を明確にしたフローチャートを提示する。また、場を工夫することで、児童が自らの課題に応じた練習を選択できるようにする。さらに、ワークシートについては、見付けた技の課題を書いたり本時のめあてを記入したりできるよう工夫する。これらの工夫をすることで、児童が主体的に運動に取り組む姿を目指す。手本の提示については、それぞれの技の行い方やポイントをいつでも確認できるようにするために、児童が持つクロームブックを介して技の動画を児童に提示する。図だけでなく動画でも示すことで、技の行い方やポイントをより理解できるようにする。また、必要に応じて ICT 機器を活用することで、児童が自己の技の出来栄を客観的に見られるようにし、できた実感を味わえるようにする。さらに、仲間と伝え合ったり互いの技を見合ったりすることを通して、児童が技能を高めることを目指す。そのために、互いの技の課題を解決する方法を模索する「アドバイスタイム」や、互いの技の出来栄や技能の伸び具合を伝え合う「チャレンジタイム」などの時間を設定する。

○運動の特性

【一般的特性】

<機能的特性>

- ・運動形態が非日常的であるが、練習により新しい技ができるようになると率先して取り組み、次の新しい技に挑戦しようとする意欲が出てくる運動である。
- ・自己の能力に応じた回転系、巧技系の技に挑戦し、個々の技やこれらの組み合わせが円滑にできるようになるところに、楽しさや喜びを味わうことのできる運動である。

<構造的特性>

- ・基本的な技をより高めたり、できそうな発展技に挑戦したりする運動である。
- ・安全に運動を行うための児童相互の補助や協力を必要とする運動である。

【児童から見た特性】

- ・できなかった技ができた時、できる技を調子よく取り組んでいる時、新しい技に挑戦している時に楽しいと感じる運動である。
- ・自己の能力に応じた課題を選んで実践できるため、意欲的に取り組むことができる運動である。
- ・運動や経験の違いにより技の種類や技能の習得の程度に差が出たり、気持ちの持ち方や授業の取り組み方によっても差が出たりする運動である。

○児童観

本学級では、どの学習においても意欲的に取り組む児童が多く見られる。特に体育の授業を楽しみにしている児童が多く、1学期に行った陸上運動(リレー走)や表現運動、鉄棒運動でも上手にできるようになるために、一生懸命努力する姿が見られた。一方で、できるようになるための自分の課題は何なのかを把握している児童は非常に少ない。また、上手にできるコツに気付いても、進んで仲間に声をかけて共有する児童は少数である。今回の単元では、運動の行い方を理解しペアやグループで練習することや練習する場や教具を選んだりすることなど児童が楽しみながら自分や仲間が成長していけるような手立てをうつ。また、児童が主体的に運動に取り組むために、各技に合わせてスモールステップの場を用意する。児童の習得状況に合わせた「できた」を実感させ、「もっとやりたい」という気持ちを高めさせるような学びを目指していく。

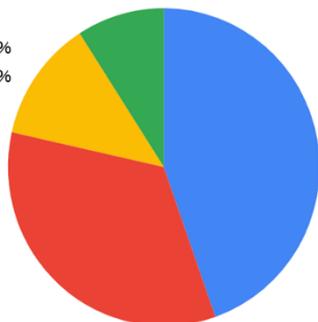
4年生の児童を対象とした、事前アンケートの結果(7月中旬実施)は以下の通りである。

4年生全体で4月に実施した体育アンケートでは、90%以上の児童が体育の授業を「楽しい」「まあ楽しい」と感じていることが分かった。一方で、マットを楽しんでいる児童は12人(3.8%)と少なく、さらに楽しくない運動(1つのみ選択)でマット運動を選んだ児童は22人(16%)と割合で最も多いことが分かった。

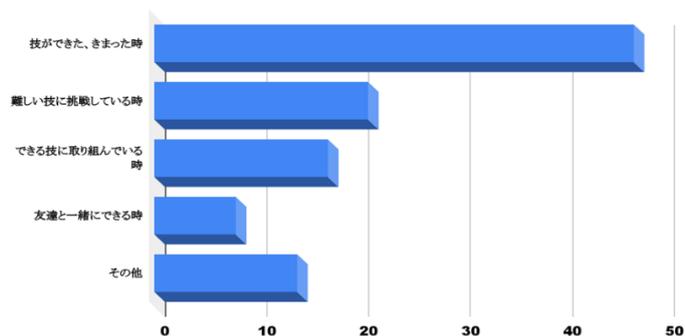
①の結果を見ると、(まあ)楽しいと思っているのが、78.5%と4月のアンケート結果からマット運動に好意的に思っている児童が増えていることが分かった。

①：マット運動は楽しいですか？

- 楽しい 44.6%
- どちらかといえば楽しい 33.9%
- どちらかといえば楽しくない 12.4%
- 楽しくない 9.1%

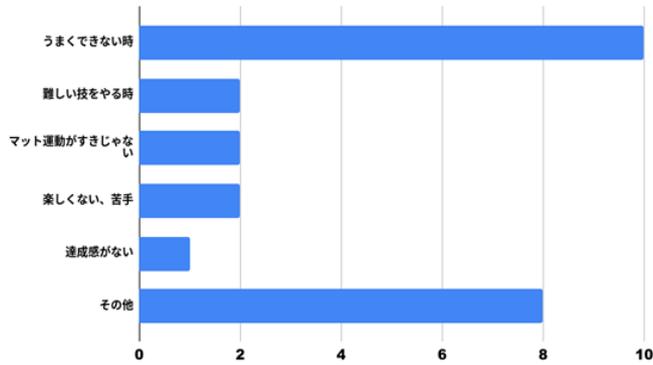


② マット運動で楽しい時はどんな時ですか？



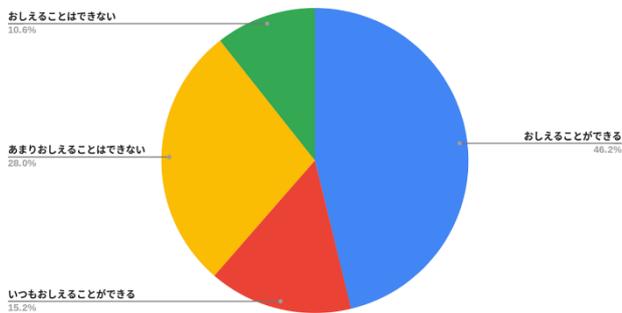
②の結果を見ると、「できる」ということが児童の中で最も大事であると分かった。「難しい技ができるようになった。」「ブリッジや側転などの技ができるようになった。」と答える児童が多くいた。技ができる喜びが好きにつながると考えられ、「できた。」という達成感を感じることができるよう教材や教具(A)(D)(H)、声かけ(J)を工夫する必要がある。

③ マット運動で楽しくない時はどんな時ですか？



③の結果を見ると、マットで楽しくない(嫌い)な理由として、「上手くできない時」、「難しい技をする時」といった苦手意識な意見が多く挙げられた。他にも、「痛い」、「怪我をする。」といった恐怖心もあった。したがって、学習するにあたっての不安な気持ちを抱かないようにするための教材 (A) (H)・教具 (G)・場の工夫 (B) が必要となる。

④：「友達が上手になるために、うまくなるためのポイントを教えることができますか？」



④の結果を見ると、体育の授業の中で教え合いを意識して取り組んでいる児童は約60%である。教え合いができない(していない)理由としては、「何を言えば良いかわからない」、「伝えることが正しいのか自信がない。」という児童がいること、教員が授業中に何を教え合うのか丁寧に示してこなかったことが予想として挙げられる。したがって、技のポイントを明確にすること (A) (H) で、友達同士で教え、学び合う手立て (F) (G) (I) が必要であると考えられる。

課題解決の視点

- ① 主体的に取り組むための工夫 ② 学び合うための工夫 ③ できたと実感するための工夫



○テーマに迫る手立て

<p>主体的に取り組むための工夫</p>	<p>(A)技の課題が分かるチェックシートの提示</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童が技の課題を細かく理解するとともに、児童自身の課題が技の中のどこにあるのかを明確にさせる。自分の現状や課題を知ること、児童が課題を解決するために必要な練習方法を、選択することに生かせるようにする。 <p>(B)場の工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> ・マットの近くには「ゴムひも（高さを確認するため）、踏み切り板（勢いをつけるため）、跳び箱の1段目（腕立て横跳び越しの練習のため）、細長いマット（開脚するため）、手形・足形（着手や着地の位置の目印）」等を置いておく。児童一人一人が課題を解決できるようにするため、課題に応じた練習を選択できるようにする。課題に応じた練習を選択することで、自己の課題に対して、どのような練習をすれば解決できるかを考え、取り組ませる。 <p>(C)ワークシートの工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ワークシートでは、個人の習得したい技の課題を選んで書く欄を設定する。また4時間目からは振り返りの時間に次時のめあてを書くようにさせる。そうすることで、技の中で自己の課題を捉える力を高め、次時の取組や練習方法を選択することに生かせるようにする。 <p>(D)マット運動学習アプリの活用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・マット運動学習アプリを活用することで、児童が技のポイントを理解し、自己の課題を明らかにできるようにする。児童が必要な時にいつでも見返すことができるように大型テレビで映しておく。
<p>学び合うための工夫</p>	<p>(E)グループの設定、練習タイム①（2人）→練習タイム②（4人）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自己の技の課題を伝えたり、互いに技の課題を見合ったり、アドバイスをしたりするために、4人グループ（生活班）を設定して活動する。さらに、そのグループを2つのグループに分けて、ペア学習ができるようにしておく。授業の後半でアドバイスや補助の量が増え、質が変わり学びが深まるように、練習タイム①はペア学習、練習タイム②はグループ学習の流れで学び合いができるようにする。 <p>(F)課題把握</p> <ul style="list-style-type: none"> ・課題把握：ペアで互いに課題の現状を確認し、どのようにすれば課題を解決することができるかを話し合ったり、次の練習方法や場を選択したりする。 <p>(G)手形・足形・話型</p> <ul style="list-style-type: none"> ・練習タイムでは、手形や足形、ゴムひもなどを用意しておき、視覚的に確認できるようにしておく。 ・伝えタイムでは、自分が伝えたい課題やアドバイスをうまく伝えられない児童のために、話型（例）を用意しておく。
<p>できたと実感するための工夫</p>	<p>(H)技の課題が分かるチェックシート（情報量減←後で、除きます）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・技の課題が分かるチェックシートには、課題を解決できたことが分かるようにチェック欄を設ける。児童の習得したい技の課題が、どこまで解決したのかを可視化することで、自己の課題を解決できたことが実感できるようにさせる。 <p>(I)伝えタイム</p> <ul style="list-style-type: none"> ・伝えタイム：グループで互いの技の課題や出来栄を見合い話型を例に伝え合う。練習タイム②を共にしたメンバーで、互いに技の出来栄を伝えたり、必要に応じてタイムシフトカメラ（2グループに1台）で見合ったりすることで、少しの進歩にも気付き、できたことを実感できるようにさせる。話型を活用することで、必要な情報が伝わるようにする。 <p>(J)できたことが実感できる声かけ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童自身は技ができたときに、できた感覚が分からないことがある。ペアやグループでできたと感じたタイミングで「グッジョブ」と決めた声かけをすることで児童自身のできた実感できるようにする。教師は具体的な声かけをする。

4 技の系統性

児童の発達の段階を踏まえ指導内容の明確化を図るとともに、指導内容の確実な定着を図るために、運動の系統性を図った。学年のつながりを考慮しながら、指導内容を確実に定着させられるよう学習を進めていく。

			第3学年	第4学年
系	技群	グループ	基本的な技	基本的な技（発展技）
回転系	接転技	前転	前転	易しい場での開脚前転 傾斜をつくった場で両手を着き、腰を高く上げながら後頭部をつき前方へ回転し、膝を伸ばして足を左右に大きく開き、接地するとともに素早く両手を股の近くに置いて膝を伸ばしたまま開脚立ちをすること。 →(開脚前転)
		後転	後転	開脚後転 しゃがんだ姿勢から体を丸めながら尻→背中→後頭部→足裏の順にマットに接して腰を上げながら後方に回転し、両手で押して立ち上がること。 →(伸脚後転)
	ほん 転技	倒立 回転	補助倒立ブリッジ	補助倒立ブリッジ 二人組の補助者は、実施者が両手をマットに着いて足を振り上げる時に、実施者の背中に手を当て、ブリッジの姿勢をつくりやすいように支えること。 →(倒立ブリッジ)
			側方倒立回転	側方倒立回転 正面を向き、体を前方へ振り下ろしながら片足を振り上げ、前方に片手ずつ着き、腰を伸ばした姿勢で倒立位を通過し、側方回転しながら片足を振り下ろして起き上がること。 →(ロンダート)
		はね 起き		首はね起き 前転を行うように回転し、両肩→背中がマットについたら腕と腰を伸ばし、体を反らせながらはね起きること。 →(頭はね起き)
巧技系	平均 立ち技	倒立	壁倒立	壁倒立 壁に向かって体を前方に振り下ろしながら片足を振り上げ両手を着き、体を真っ直ぐに伸ばして壁に足をもたれかけて倒立すること。 →(補助倒立)
巧技系	平均 立ち技	倒立	頭倒立	頭倒立 頭と両手で三角形をつくるように、両手を肩幅くらいに着き、頭を三角形の頂点になるようについて、腰の位置を倒立に近付けるようにあげながら両足をゆっくりと上に伸ばし逆さの姿勢になること。

5 第3学年 単元の指導と評価の計画（全7時間）

時間	1	2	3	4	5	6	7	
学習段階	知る	つかむ			深める			
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> マット運動の行い方を知る。㊦ マット運動の約束を守り、積極的に運動している。㊧ 	<ul style="list-style-type: none"> 回転系の技の行い方やポイント、練習の仕方を理解することができる。㊦ 自己の能力に適した技を選んだり、課題を見付けたりしている。㊧ 	<ul style="list-style-type: none"> 回転系の技の行い方やポイント、練習の仕方を理解することができる。㊦ 自己の能力に適した技を選んだり、課題を見付けたりしている。㊧ 	<ul style="list-style-type: none"> 巧技系の技の行い方やポイント、練習の仕方を理解することができる。㊦ 自己の能力に適した技を選んだり、課題を見付けたりしている。㊧ 	<ul style="list-style-type: none"> 学習資料を活用して練習の場や練習の仕方を選んでいる。㊦ 課題解決のために考えたことを友達に伝えている。㊧ 	<ul style="list-style-type: none"> 学習資料を活用して練習の場や練習の仕方を選んでいる。㊦ 課題解決のために考えたことを友達に伝えている。㊧ 	<ul style="list-style-type: none"> 自己の能力に適した回転系や巧技系の基本的な技に取り組み、技を身に付けることができる。㊦ マット運動を行う中で互いの動きを見合う際に、仲間の考えや取組を認めようとしている。㊧ 	
学習活動	1めあての確認 2場・器具の準備							
	マット運動の行い方を知ろう。	前転・後転という技を知り、練習しよう。	補助倒立ブリッジ・側方倒立回転という技を知り、練習しよう。	壁倒立・頭倒立という技を知り、練習しよう。	友達と教え合いながら自分が選んだ技を練習しよう。(回転系)	友達と教え合いながら自分が選んだ技を練習しよう。(巧技系)	できる技を組み合わせよう。	
	3準備運動・補助運動(感覚づくり運動)							
	4 マット運動の約束の確認をする。	4 前転の行い方を知り、取り組む。	4 補助倒立ブリッジの行い方を知り、取り組む。	4 壁倒立の行い方を知り、取り組む。	4 課題把握・練習確認	4 課題把握・練習確認	4 課題把握・練習確認	
5 2年生で取り組んだ動きを振り返る。	5 後転の行い方を知り、取り組む。	5 側方倒立回転の行い方を知り、取り組む。	5 頭倒立の行い方を知り、取り組む。	5 練習タイム①	5 練習タイム①	5 練習タイム①		
6 2年生で取り組んだ動きのポイントを共有する。	6 自分の課題を知る。	6 自分の課題を知る。	6 自分の課題を知り、取り組む技を決める。	6 練習タイム②	6 練習タイム②	6 練習タイム②		
7 技の系統性を確認し、3年生で学習する技を知る。				7 伝えタイム	7 伝えタイム	7 伝えタイム		
8整理運動 9振り返り(クラス全体・個人) 10片付け								
評価の重点	知	① 学習カード	② 運動の様子	② 運動の様子	③ 運動の様子		④ 運動の様子	
	思				① 学習カード	② 学習カード	③ 学習カード	
	態	① 児童の様子	② 児童の様子				③④ 児童の様子 学習カード	

※網掛けは「記録に残す評価」、その他は「指導に生かす評価」とする。

6 第4学年 単元の指導と評価の計画（全7時間）

時間	1	2	3	4	5	6 (本時)	7
学習段階	知る	つかむ			深める		
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> マット運動の行い方を知る。☒ マット運動の約束を守り、積極的に運動している。☒ 	<ul style="list-style-type: none"> 回転系の技の行い方やポイント、練習の仕方を理解することができる。☒ 自己の能力に適した技を選んだり、課題を見付けたりしている。☒ 	<ul style="list-style-type: none"> 回転系の技の行い方やポイント、練習の仕方を理解することができる。☒ 自己の能力に適した技を選んだり、課題を見付けたりしている。☒ 	<ul style="list-style-type: none"> 巧技系の技の行い方やポイント、練習の仕方を理解することができる。☒ 自己の能力に適した技を選んだり、課題を見付けたりしている。☒ 	<ul style="list-style-type: none"> 学習資料を活用して練習の場や練習の仕方を選んでいる。☒ 課題解決のために考えたことを友達に伝えている。☒ 	<ul style="list-style-type: none"> 学習資料を活用して練習の場や練習の仕方を選んでいる。☒ 課題解決のために考えたことを友達に伝えている。☒ 	<ul style="list-style-type: none"> 自己の能力に適した回転系や巧技系の基本的な技に取り組み、技を身に付けることができる。☒ マット運動を行う中で互いの動きを見合う際に、仲間の考えや取組を認めようとしている。☒
学習活動	1めあての確認 2場・器具の準備						
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> マット運動の行い方を知ろう。 </div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 易しい場での開脚前転・開脚後転という技を知り、練習しよう。 </div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 補助倒立ブリッジ・側方倒立回転という技を知り、練習しよう。 </div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 壁倒立・頭倒立という技を知り、練習しよう。 </div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 友達と教え合いながら自分が選んだ技を練習しよう。(回転系) </div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 友達と教え合いながら自分が選んだ技を練習しよう。(巧技系) </div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 互いの演技を見合い、伸びたところを伝え合おう。 </div>
	3準備運動・補助運動（感覚づくり運動）						
	4 マット運動の約束の確認をする。	4 易しい場での開脚前転の行い方を知り、取り組む。	4 補助倒立ブリッジの行い方を知り、取り組む。	4 壁倒立の行い方を知り、取り組む。	4 課題把握・練習確認	4 課題把握・練習確認	4 課題把握・練習確認
5 3年生に取り組んだ技を振り返る。	5 開脚後転の行い方を知り、取り組む。	5 側方倒立回転の行い方を知り、取り組む。	5 頭倒立の行い方を知り、取り組む。	5 練習タイム①	5 練習タイム①	5 練習タイム①	
6 前転や後転が上手にできるポイントを共有する。	6 自分の課題を知る。	6 自分の課題を知る。	6 自分の課題を知り、取り組む技を決める。	6 練習タイム②	6 練習タイム②	6 練習タイム②	
7 技の系統性を確認し、4年生で学習する技を知る。				7 伝えタイム	7 伝えタイム	7 伝えタイム	
8 整理運動 9 振り返り（クラス全体・個人） 10 片付け							
評価の重点	知	① 学習カード	② 運動の様子	② 運動の様子	③ 運動の様子		④ 運動の様子
	思				① 学習カード	② 学習カード	③ 学習カード
	態	① 児童の様子	② 児童の様子				③④ 児童の様子 学習カード

※網掛けは「記録に残す評価」、その他は「指導に生かす評価」とする。

7 本時の活動計画（6/7）

（1）本時の目標

- ・自己の能力に適した回転系や巧技系の基本的な技や発展技に取り組み、技を身に付けることができる。
【知識及び技能】
- ◎課題の解決のために考えたことをワークシートに書いたり、友達に伝えたりしている。
【思考力・判断力・表現力等】
- ・マット運動を行う中で互いの動きを見合う際に、仲間の考えや取組を認めようとしている。
【主体的に学習に取り組む態度】

（2）本時の展開

○児童の主な学習活動 ・予想される児童の思いや考え	*教師の指導・支援 ☆評価規準（評価方法）【観点】
<p>○めあて、学習の流れの確認</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> <p>め 友達と教え合いながら、自分が選んだ技を練習しよう。</p> </div> <p>○場・器具の準備 ・マット・目印（手・足・目）・タイムシフトカメラ</p> <p>○準備運動・補助運動 ・補助運動では、主運動につながる「かえるの足打ち、ゆりかご、アンテナ、ブリッジ、連続前転」を行う。</p>	<p>*マット運動で使う体の部位を意識できるように声をかける。</p>
<p>【課題の把握・練習確認】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自己の課題の把握を確認する。 ・自己の課題に適した練習を選択する。 <p>C: 壁倒立ができるようになるために、あごを引いてしまうことが課題なので意識して練習する。</p> <p>【練習タイム①】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自己の課題をペアグループの児童に伝える。 ・互いに課題を見合い、アドバイスをする。 <p>【練習タイム②】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・練習タイム①を振り返り、課題の現状を考える。 ・次回の練習タイム②の練習の場や練習の仕方を決め、練習をする。 <p>C: 壁倒立する時にあごは引いてないよ。しっかり目線はマットの方に向いてるね。</p> <p>C: 技をやる時、手形をしっかりと見ると良いよ。</p> <p>C: 手の突き放しが上手になったよ。</p> <p>【伝えタイム】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・練習タイム②を生かしながら技の出来栄をグループごとに見合う。 ・わがができるようになるコツを生活班に伝える。 	<p>*本時まで、児童のできるようになりたい技の課題を明確にしておく。</p> <p>*【課題の把握・練習確認】では、苦手意識をもつ児童のところに積極的に入り、どのような課題なのか、どのような練習をするかを共に考える。</p> <p>*【練習タイム①】では、課題を解決するための取組や技のポイントを的確にアドバイスをしている児童への称賛を積極的に行う。さらに、課題の解決が見られる児童を称賛したり、課題に対して練習できているかを指導したりする。</p> <p>*【練習タイム②】では、課題を解決するために、困っている児童のグループの話し合いに積極的に入り、どのような練習の場や仕方をするかを共に考える。</p> <p>☆課題の解決のために自己や仲間の考えたことを他者に伝えている。 (思・判・表③) 【観察・カード分析】</p> <p>*【伝えタイム】では、グループごとに必要に応じて話型を事前に配布し、話型を見ながら伝えることができるようにする。</p>
<p>○整理運動</p> <p>○まとめ・振り返り C: あごを引かなくなったから壁倒立ができるようになった。</p> <p>○片付け ・安全に気を付けて片付けをする。</p>	<p>*使った部位を意識してほぐすように声をかける。</p> <p>*全体で振り返り、その後個人の振り返りにまとめる。</p> <p>*協力して素早く安全に片付けられるように声をかける。</p>